図書館の本だな

～５・６年生　おすすめの本のリスト　２０２５～

起業家フェリックスは１２歳

アンドリュー・ノリス 著　千葉 茂樹 訳　あすなろ書房　９３３－ノ

　フェリックスはショッピングモールで母さんへのバースデーカードをさがしますが、手持ちのお金では買えません。そこでフェリックスはモーの家に立ちより、モーが作ったカードをプリントアウトしてほしいとおねがいします。モーは必要なだけプリントアウトしていいといって、フェリックスにディスクをわたしました。母さんは大よろこびで、おばあちゃんにもプリントアウトしてあげると、おばあちゃんはフェリックスにお金をわたしました。

夏のサンタクロース　フィンランドのお話集

アンニ・スヴァン 作　古市 真由美 訳　岩波書店　９９３－ス

　ヒースの花さく荒れ野に、赤い小屋があり、おとうさんとおかあさん、カイサ＝リーサ、弟 たちがすんでいました。ある夏の日、家の外からうめき声が聞こえてきたので子どもたちが声のするほうへ走っていきました。すると、ぼろぼろの身なりをした白いひげのおじいさんが横たわっていました。おじいさんはサンタクロースで、びっくりした子どもたちは、おじいさんを家につれていきます。おじいさんは、ひどいありさまになったわけを話しはじめました。

ぽっぺん先生と帰らずの沼

舟崎 克彦 作　岩波書店　９１３－フ

　ぽっぺん先生は大学食堂の前庭の木かげで、いつも昼食を食べています。昼休みのおわりのチャイムがなり、先生が腕時計を見てみると、時計がとまってしまいました。そのとき、目の前を美しい桃色のウスバカゲロウがはばたいてゆきます。先生がおいかけていると、背後に巨大な人影がせまってきました。先生が大声でさけぶと先生は空中へ舞い上がり、気がつくとウスバカゲロウに変身していました。

私立探検家学園　1

斉藤 倫 著　福音館書店　９１３－サ

小五になった松田コロンは、おじいちゃんがきめた私立探検家学園にかようことになりました。コロンは、おかあさんの手描きの地図を見ながら学校をめざします。まよいながら山中をあるいていると、黒くて高い塀が見え、おおきな門扉から敷地に入りました。校舎の手まえには川が流れていますが、橋がありません。コロンはどうやってわたるか、試されていることに気がつきました。

天動説の絵本

安野 光雅 著　福音館書店　Ｅ－ア

太陽や月が丸天井にはりついてまわっていると信じられていたころ、北の天文学者は、地めんはまるいといいはじめました。星の動きをしらべた南の天文学者も、まるい大地が動いているといいます。ある日、ぼうけんずきの船のりの一行が、西へむかいました。西へすすんで東の国へゆき、もとのところにかえってこれたら、大地がまるいというしょうこです。

釣って食べて調べる深海魚

平坂 寛 文　福音館書店　６６４－ヒ

日本は、世界的にも特に「深海に近い国」です。深海魚の中には食べられるものも多く、市場にはたくさんの深海魚がならんでいます。キンメダイやカラスガレイなど深海魚には、脂がのっていておいしいものが多いです。それは深海で沈んでしまうことなく泳げるように、筋肉にたくさん脂をたくわえているからです。

女王さまのワードローブ

イギリス国民に愛された女王エリザベスⅡ世の物語

ジュリア・ゴールディング 文　前沢 明枝 訳　ＢＬ出版　２８９－エ

１８４１年に、ヴィクトリア女王ははじめての赤ちゃんをさずかります。そのとき作られたベビードレスは、１９２６年に生まれたエリザベスをはじめ、６１人の赤ちゃんが着ることになります。繊細な手仕事で作られたドレスは、決まりを守って受け継がれてきました。王族のドレスを作るときは、最高の技と材料が集められます。エリザベスの戴冠式用のドレスは、刺しゅうの工程だけで３か月もかかりました。

博物館の少女　怪異研究事始め

富安 陽子 著　偕成社　９１３－ト

大阪の道具屋の娘だった花岡イカルは、父と母が亡くなり、東京の親戚の家で暮らすことになりました。ある日イカルは、二つ上のトヨが博物館の館長に絵の掛け軸を届けるというので、いっしょに出かけます。館長はイカルの名前を聞いて道具屋の娘とわかると、はっと目をみはり驚きます。

みどりのゆび

モーリス・ドリュオン 作　安東 次男 訳　岩波書店 ９５３－ド

チトという男の子は学校へいかずに、庭師のムスターシュおじいさんから土のことや、花のことをおしえてもらいました。そのときに、チトはじぶんが種にさわると花がさく、ふしぎなみどりのおやゆびをもっていることがわかります。チトはそのゆびをつかって、ミルポワルの町じゅうに花をさかせました。

ミス・ビアンカ くらやみ城の冒険

マージェリー・シャープ 作　渡辺 茂男 訳　岩波書店　９３３－シ

ねずみたちは「囚人友の会」で、くらやみ城にとじこめられているノルウェー人の詩人を救いだす計画をたてました。その任務を遂行する勇気のあるねずみをさがしだすのは、大使館に住んでいる美しい白ねずみのミス・ビアンカです。ミス・ビアンカは大使のかばんのなかに入って、飛行機でノルウェーに行きました。

「図書館の本だな」で紹介している本は

加古川市立中央図書館	☎（４２５－５２００）
加古川市立加古川図書館	☎（４２２－３４７１）
*たんよう*ウェルネスパーク図書館	☎（４３３－１１２２）
加古川海洋文化センター図書室	☎（４３６－０９４０）

にあります